

bit-drive 設定マニュアル
メールチェックゲートウェイ
メールサーバ設定マニュアル

2011 年 6 月 15 日 Version 1.1

bit-drive

目次

1 本マニュアルについて	3
2 設定	3
2-1 利用サーバについて.....	3
2-2 sendmail.....	4
2-3 postfix.....	5
2-4 qmail	6
2-5 そのほかのメールアプリケーションについて	7

1 本マニュアルについて

本マニュアルは、メールチェックゲートウェイサービスをご利用いただくために最低限必要なお客さまメールサーバ設定手順について記載しています。

サービスを利用開始するにあたり、お客さまメールサーバのリレー（転送）設定にメールチェックゲートウェイサーバをご指定いただくことで、お客さまメールサーバから送信されるメールについてウィルスの検知・駆除、スパムメールの検知を行えるようになります。

※メールチェックゲートウェイサービスとは、ウィルスチェックゲートウェイサービスとスパムチェックゲートウェイサービスの2つのサービスの総称です。

尚、お客さまメールサーバに設定するドメイン名を以下のように記載しています。実際に設定される際には、ご利用になられているドメイン名に置き換えてご覧ください。

設定例ドメイン名: **example.com**

2 設定

2-1 利用サーバについて

お客さまにご利用いただくメールチェックゲートウェイサーバは、弊社インフォメーションセンターよりサービス開始時にメールにて送付している『[bit-drive メールチェックゲートウェイサービス ご利用サーバ確定のお知らせ](#)』に記載されております。

【bit-drive メールチェックゲートウェイサービス ご利用サーバ確定のお知らせ】

プライマリサーバ: vcgwp**X**.bit-drive.ne.jp
セカンダリサーバ: vcgws**X**.bit-drive.ne.jp

[ウィルスチェックゲートウェイサービス]
サービス開始日: 20XX 年 XX 月 XX 日

[スパムチェックゲートウェイサービス]
サービス開始日: 20XX 年 XX 月 XX 日

“p**X**”と“s**X**”の部分はお客さま毎に異なります。X は 1 桁以上の半角数字となります。

尚、設定はサービス開始日以降に行ってください。事前に設定した場合、メールの送信ができなくなりますのでご注意ください。

2-2 sendmail

設定例では sendmail 付属の m4 コマンドを使用した設定方法となります。本コマンド以外の手順につきましては、別途マニュアルや参考書籍をご覧ください。

また、OS 付属のコマンドやバージョンによって手順が異なる場合がございますのでご注意ください。

[1] sendmail.mcの設定(リレー先設定、メールサイズ制限設定)

本ファイルに、リレー先(転送先)となるメールチェックゲートウェイサーバを記述します。

また、リソースの問題など、都合により大容量のメールを受け取りたくない場合は、予め本設定ファイルに制限値を記述します。(メールチェックゲートウェイサービスにおけるメールサイズの制限値は、1 通当たり 100Mbytes となっております)

※下記コンフィグ内における灰色部分につきましてはお客さま任意で設定を行ってください。

```
divert(0)dnl
OSTYPE(linux)dnl
DOMAIN(generic)dnl
FEATURE(`access_db',`hash -o -T<TMPF> /etc/mail/access')dnl
define(`SMART_HOST',`smtp.vcgwpX.bit-drive.ne.jp)dnl ←①
MAILER(local)dnl
MAILER(smtp)dnl

dnl maximum message size ←②
define(`confMAX_MESSAGE_SIZE',`5242880')dnl ←③
```

①メールチェックゲートウェイサーバのプライマリを指定

※MX レコードを参照するように、必ず[](カギカッコ)なしで指定してください。

②コメント行(記述しなくても問題ありません)

③制限値を byte 単位で記述

設定例は 5Mbytes の場合の設定値となります(5 × 1024 × 1024)

SMART_HOST 行に上記の記述をすることにより、該当サーバの MX レコードを参照してメール送信が行われます。(メールチェックゲートウェイサーバプライマリの MX レコードには、プライマリとセカンダリの両方が登録されています)

mc ファイル編集後、m4 コマンドを使用して cf ファイルを作成します。

[2] accessファイルの設定

本ファイルにてオープンリレーを拒否する設定を行います。

お客さま内部ネットワークなど SMTP リレーを許可するネットワークアドレスを指定します。

※下記は設定例となりますので、お客さまの環境に合わせた設定を行ってください。

```
Connect:local RELAY
```

```
Connect:127.0.0.1 RELAY
```

```
Connect:172.16.10 RELAY
```

```
Connect:192.168.10.100 RELAY
```

←ネットワーク単位(172.16.10.0/24)で許可

←ホスト単位(192.168.10.100)で許可

access ファイル編集後、makemap コマンドを使用して更新し、sendmail を再起動します。

2-3 postfix

[1] main.cfの設定

本ファイルに、リレー先(転送先)となるメールチェックゲートウェイサーバと、お客さま内部ネットワークなど SMTP リレーを許可するネットワークアドレスを指定します。加えて、リソースの問題など、都合により大容量のメールを受け取りたくない場合は、予め本設定ファイルに制限値を記述します。(メールチェックゲートウェイサービスにおけるメールサイズの制限値は、1 通当たり 100Mbytes となっております)

※下記コンフィグ内における灰色部分につきましてはお客さま任意で設定ください。

```
myhostname = mail.example.com
```

```
mydomain = example.com
```

```
mydestination = $myhostname,localhost,$mydomain
```

```
mynetworks = 172.16.10.16/28,192.168.10.0/24
```

```
relayhost = vcgwpX.bit-drive.ne.jp
```

```
unknown_local_recipient_reject_code = 550
```

```
message_size_limit = 5242880
```

←受信を許可する IP アドレスを CIDR 表記で指定

←メールチェックゲートウェイサーバのプライマリを指定

※MX レコードを参照するように、必ず[](カギカッコ)なしで指定してください。

←<Postfix-2.X をご利用の場合>

本設定はデフォルト値の“550”から変更しないで

ください。設定を変更した場合、メールチェックゲートウェイサービスの動作遅延に繋がる可能性があります。

←制限値を byte 単位で記述

左記は 5Mbytes の場合の設定値となります

(5 × 1024 × 1024)

mail.cf ファイル編集後、postfix を再起動します。

2-4 qmail

qmailによるメールチェックゲートウェイサーバへのリレー設定例と、tcpserverを用いた場合のオープンリレー対策設定例について記載しています。tcpserverを有効にするには、事前にucspi-tcpのインストールが必要となります。

それ以外の設定方法につきましては qmail のマニュアルをご覧ください。

[1] smtproutesの設定

本ファイルにメールチェックゲートウェイサーバへリレーする設定を行います。

```
.vcgwpX-qmail.bit-drive.ne.jp
```

←メールチェックゲートウェイサーバ(qmail用)を指定

qmailではMXレコードが参照されないため、メールチェックゲートウェイサーバのプライマリとセカンダリ両方のAレコードをもったFQDNを設定します。メールチェックゲートウェイサーバプライマリFQDNにおける“pX”の後ろに“-qmail”を付加したFQDNには、プライマリサーバとセカンダリサーバのIPアドレスが登録されています。

本ファイルは編集後、保存と同時に設定が反映されます。

[2] tcp.smtpファイルの設定

本ファイルにてオープンリレーを拒否する設定を行います。

お客さま内部ネットワークなど、SMTPリレーを許可するネットワークアドレスを指定します。

```
192.168.10.:allow,RELAYCLIENT=""
172.31.:allow,RELAYCLIENT=""
127.0.0.1:allow,RELAYCLIENT=""
:allow
```

←192.168.10.0/24からの受信を許可

←172.31.0.0/16からの受信を許可

←127.0.0.1(メールサーバ自体)からの受信を許可

tcp.smtpファイル編集後、データベース化するためにtcprulesコマンドを実行し、反映します。

[3] メールサイズ制限設定(databytesファイル)

リソースの問題など、都合により大容量のメールを受け取りたくない場合は、予め本設定ファイルに制限値を記述します。(メールチェックゲートウェイサービスにおけるメールサイズの制限値は、1通当たり100Mbytesとなっております)

```
5242880
```

←制限値をbyte単位で記述

左記は5Mbytesの場合の設定値となります

(5 × 1024 × 1024)

本ファイルは編集後、保存と同時に設定が反映されます。

2-5 そのほかのメールアプリケーションについて

上位メールリレー(転送)先に、メールチェックゲートウェイサーバをご指定ください。

(一部アプリケーションでは「スマートホスト」と表現しているものもあります)

また、オープンリレーを拒否する設定を適用してください。